



2011年12月14日放送

漢方頻用処方解説 半夏白朮天麻湯

日本大学 統合和漢医薬学分野 矢久保 修嗣

半夏白朮天麻湯は、中国の金元時代の名医である李東垣（りとうえん：1180-1251）による『脾胃論』に記された処方です。日本では鎌倉時代です。李東垣は、脾胃、すなわち消化器官および代謝機能を行う器官が人の健康維持に最も重要なものと考え、病気の回復、予防、その他の臓器の機能の正常化は、この脾胃の機能にかかっていると考えました。補中益気湯も、この李東垣がつくったものです。多くの種類の生薬を少量ずつ用いて組み合わせるのも、李東垣の方剤の特徴です。原典では、平素から胃腸虚弱な女性が寒い中を外出して帰ってから、寒さのためもだえ苦しむようになった。誤って下剤を用いたため、嘔気、めまい、頭痛などが悪くなった。下剤により消化器機能をさらに障害したため、症状が増悪したものと考え、半夏白朮天麻湯を投与したところ治った、という内容です。

わが国における古典では、江戸時代初期の曲直瀬玄朔による『医療衆方規矩』には、「半夏白朮天麻湯は、頭痛、めまい、四肢厥冷を治す処方である。冷えのぼせがあり、常習頭痛、吐き気、嘔吐、胃部のつかえ、膨満感を訴える者に与えるとよい。」とあります。明治時代初期の浅田宗伯による『勿誤薬室方函口訣』には、「この方は水毒の頭痛が治療目標である。胃腸虚弱で、水毒が上衝して頭痛を発症するものを治療する。また高齢者や虚証のめまいに使用する。ただ足の冷えを目標とする。」と記載されています。

半夏白朮天麻湯の構成生薬は半夏、白朮、茯苓、陳皮、蒼朮、麦芽、天麻、神麴、黄耆、人參、沢瀉、黄柏、乾姜、生姜の14種類の生薬です。人參と黄耆を含む点では、補中益気湯などと同じ参耆剤の一種です。臨床的にも胃腸虚弱者の消化機能を改善する働きがあります。沢瀉は利尿作用、渴きを止める作用、鎮痛作用があります。沢瀉と朮の組み合わせ

は、沢瀉湯と呼ばれる処方です。『金匱要略』には、水毒によって、頭に帽子をかぶっているような感じがするめまいが、沢瀉湯の適応と記載してあります。

天麻は鎮痙・鎮痛作用があり、頭痛、めまい、手足の痛みに用います。麦芽、神麴、黄柏などは健胃消化剤です。乾姜、人参などには温める作用もあるので、冷えを改善する働きもあります。半夏には、制吐、鎮咳、鎮静などの作用があります。半夏にはシュウ酸カルシウムなどによる口腔粘膜の刺激のため、強いえぐみがあります。この強い刺激性のえぐみは、生姜と一緒に煎じることで解消されます。日本大学では漢方薬の実習があり、学生はこの半夏のえぐみを全員が体験しています。

半夏白朮天麻湯は胃腸虚弱があり、生体の機能が低下している虚証の状態にある人に見られるめまい、頭痛などの水毒を治療する方剤です。半夏白朮天麻湯の主訴は通常、めまい、あるいはめまい感です。軽いものはフラフラしためまい感です。雲の中に浮かんでいるようだというものや、船に乗って揺られているようだ、と表現することもあります。また起き上がったときにグラグラするもの、いわゆる立ちくらみといわれるものです。ひどい時には、少し頭を動かしただけでもめまいが増悪したりします。発作性の激しいめまいが起こり、天地がひっくり返るようだということもあります。嘔吐を伴うこともあります。頭重感や頭痛は必ずしも伴うものではありません。頭冒といわれる頭に何かかぶさっているようだというタイプのものから、ときに強い頭痛を訴える者もあります。眉間のあたりから前額部、頭頂部にかけて痛むということもあります。

この処方を用いるうえで重要なポイントとして、消化吸收機能の慢性的低下状態があります。痩せ型で疲れやすく、いわゆる胃下垂傾向があつて、血色が悪い人です。食後に手足がだるくなって、眠気が起こりやすかったりします。足が冷えたり、便秘をするというものも多くみられます。所見としては、脈は弱く沈んでいます。腹部所見では、腹壁全体が柔らかく、みぞおちのあたりに痞えがみられます。みぞおちのあたりを叩くと、チャポチャポと音がするという振水音を認めます。

半夏白朮天麻湯と鑑別すべき方剤としては、苓桂朮甘湯、真武湯、当帰芍薬散、五苓散、呉茱萸湯があります。

苓桂朮甘湯は比較的急性に起こっためまいによく使用されます。半夏白朮天麻湯に比べると頭痛、頭重はあつても軽く、胃腸もそれほど弱くありません。腹部には、半夏白朮天麻湯と同様に振水音が認められますが、苓桂朮甘湯では、腹部大動脈の拍動を容易に触れるという腹部動悸の所見を伴います。

真武湯は新陳代謝の低下した虚弱な冷え症に用いることが多く、めまいは激しいものではありません。雲の上を歩いているような感覚、ふわふわとしたところを歩いているような身体動揺感が主症状です。腹部には、半夏白朮天麻湯と同様に振水音がありますが、胃腸は冷えのため、下痢をしやすい傾向にあります。

当帰芍薬散はめまいに頭重、頭痛、足の冷えなどや、腹部の振水音は半夏白朮天麻湯と共通しています。月経異常を伴う者、妊娠中、産後のめまいなど当帰芍薬散は若年女性に多く用いられます。

次に五苓散です。五苓散も嘔吐、めまい、頭痛などに用いられます。五苓散は典型的には口渇があって、尿の出が悪くなる症状があります。気が上衝するために嘔吐を伴います。脈は浮いています。腹部では腹壁は柔らかく、振水音も多くみられます。半夏白朮天麻湯ほどの胃腸虚弱はみられません。

最後は、半夏白朮天麻湯と呉茱萸湯の鑑別です。半夏白朮天麻湯の治療目標はめまい、嘔吐、頭痛の順です。呉茱萸湯は頭痛、嘔吐、めまいの順です。半夏白朮天麻湯の治療目標はめまいで、呉茱萸湯の場合には頭痛です。呉茱萸湯の頭痛には拍動性の片頭痛などもあります。半夏白朮天麻湯の頭痛は、通常はげしい頭痛ではなく頭が重いような痛みです。

ここで症例をお示しします。症例は40歳代の女性です。主訴はめまいです。現病歴としては、2週間前よりめまいの出現があります。振り向いた瞬間、あるいは起き上がるとひどいめまいがします。立ち上がるとふらつきます。脳が揺さぶられる感じがする、頭がグワングワンとする、ということでした。耳鳴りはありません。頸が重く、頸から右耳のあたりにかけて頭が重い感じがします。軽い頭痛も伴っています。めまいに関しては、20年前よりめまいがあり、抗めまい薬を内服したこともあります。

既往歴、家族歴に特記すべきことはありません。身体所見では眼振は認めませんでした。身長156cm、体重48kg、血圧103/61mmHg、やや痩せており、眼球結膜、眼瞼結膜に異常を認めず。胸部・腹部には一般的な異常は認めませんでした。下腿浮腫も見られません。

漢方医学的所見としては、つやつやとした白い肌をしています。顔がむくむことがある。車酔いをしやすい。小児期には学校から帰ってくると家でゴロゴロしていた。疲れやすい。翌朝に疲れが残る。冷え症で手足は冷える。目のまわりにクマがしやすい。生理不順などがあります。舌は薄いピンク色です。腫大はありませんが歯の痕、歯痕を認めます。舌苔は白。舌静脈の怒張がみられます。脈は沈んでいて速く、脈の力は弱く小さい脈でした。腹部では腹壁は軟弱、軽い心下痞硬、軽い腹直筋の緊張、軽い臍傍の圧痛、明らかな振水音をみとめました。

軽い瘀血の所見もあるようですが、虚証で水毒、気虚の所見がみられました。このため半夏白朮天麻湯エキス剤7.5g/日分3の投与を開始しました。翌日よりめまい、頭重感の軽快が得られました。来院した時には、これを内服するとめまい、頭重感の改善ばかりでなく、体が軽く感じてだるさも無くなるということで、内服を継続しております。話を聞いていると、天気の良い時、雨の日は特に体が重く感じ、頭も重いことがあると聞いていました。このあたりは、水毒の特徴を感じさせる所見です。

これまで行われてきた半夏白朮天麻湯に関する臨床研究を紹介します。

メニエール病と診断された11例を対象としたものでは、半夏白朮天麻湯のめまいに対する中等度以上の改善は70%に達しました。特に回転性のめまいに有効で、めまい以外の自覚症状では首すじ・肩のこり、悪心、嘔吐、食欲不振、倦怠感などにも効果がみられています。

めまいを、耳性めまい群と中枢性めまい群に分け、半夏白朮天麻湯を8週間投与した検

討では、耳性めまい群では 6 例全例が改善以上になりました。一方、神経細胞に変化のある中枢性めまい群では、改善以上は 37.5%でした。

小児科領域でみられるめまいには起立性調節障害があります。起立性調節障害は身体発育の著しい思春期前後に多い自律神経失調症です。特に起立することにより発生するめまい、脳貧血などの循環調節障害がみられます。また朝調子が悪く、午後になるに従って元気になるなどの特徴があります。起立性調節障害と診断された 20 例に対して、半夏白朮天麻湯を 2 ヶ月間投与した検討では、85%の有効率を示しました。症状別では動悸、顔色の不良、食欲不振、腹痛、乗り物酔いに対して 80%以上の効果がみられました。

半夏白朮天麻湯の応用として、慢性副鼻腔炎で、局所的治療で苦痛のとれないものが、半夏白朮天麻湯の内服によって比較的すみやかに軽快するという報告もあります。また最近では、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災後のめまい、いわゆる地震酔いが注目されております。これは、地震後の余震などによりめまいが持続してしまうもので、自律神経失調症との関連も推測されています。このような地震酔いに対して、半夏白朮天麻湯が有用であるという報告もみられます。

半夏白朮天麻湯は、胃腸虚弱のため水毒の排泄が不十分となり、この水毒が逆上してめまい、頭痛、嘔吐、その他の症状を起こしてきたものに対して、これらの原因である胃腸を補い、水毒を下の方へ導いてめまい、頭痛などの症状を治癒させるという作用を持っています。今日は、簡単に半夏白朮天麻湯を紹介しました。諸先生方の臨床のお役にたつことができれば幸いです。